



版元
伏見屋善六

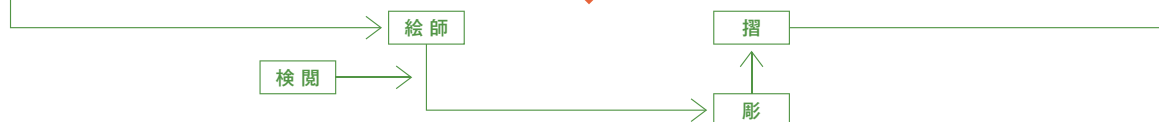


版元
高津屋伊助

水田コレクション展

浮世絵の

版元と出版



2012年 10月30日[火]—11月10日[土]

【開館時間】午前10時～午後4時 【休館日】月曜日、11月1日(学園祭準備の為)

【入館料】一般300円、高校生以下無料 【お問合せ】049-271-7327 <http://www.josai.ac.jp/~museum/>

図版=喜多川歌麿《大名屋敷の山東京伝》大判錦絵三枚続 天明8年~寛政2年(1788~90)



城西大学水田美術館
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

浮世絵の 版元と出版

水田コレクション展

浮世絵版画の最大の特徴は、大衆が気軽に購入できる量産された出版物である点です。それを企画から宣伝、販売まで一手に引き受けるのが版元です。一枚の浮世絵は、版元が企画を立て絵師に注文するところから始まり、決して絵師が単独で思うがままに描いたものではありません。その売れ行きは、移ろいやすい大衆の好みや流行を先取りし、人気絵師を起用する版元の手腕にかかっています。喜多川歌麿や山東京伝、無名の東洲斎写楽を売り出した版元蔦屋重三郎は、その卓越した例といえるでしょう。

一方で、出版活動の活発化とともに、幕府の取締りも強化され、寛政期(1789～1801)には検閲制度が始まります。度重なる禁令や取締りの中でも、版元は、実名を禁じられれば判じ物仕立てで裏をかくような、様々な工夫をして大衆の興味を喚起し、出版は発展を続けました。

浮世絵版画をすみずみまで眺めると、絵師の落款だけでなく、屋号などを意匠化した“版元印”に気づくでしょう。このことは、版元の役割の重要性を物語ります。また、検閲の“改印”は、作品の刊行時期を知る情報源ともなっています。

この度の展覧会は、“版元印”や“改印”に見られる小さな情報に注目し、浮世絵版画を出版の歴史から捉えるものです。初期浮世絵時代から改印の現れる寛政以降、さらに新制度下の明治期までの作品を通し、出版をとりまく社会状況を読み取りながら、ひと味違った視点で浮世絵をお楽しみください。

交通案内

【電車の場合】東武東上線坂戸駅乗り換えで東武生越線川角(かわかど)駅下車、踏切を渡り徒歩10分

【お車の場合】1.関越自動車道鶴ヶ島インター下車、鶴ヶ島方向に進み国道407号線を直進 2.「脚折町四丁目」交差点で右折し、左にローソン、右に狩野動物病院の看板がある交差点で右折 3.一本松交差点を毛呂山方面に直進 4.橋(万年橋)を渡り、「明海大学病院」の看板のある交差点を左折し直進、踏切を渡り坂道を上る(約20分)



城西大学水田美術館
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1

【開館時間】午前10時～午後4時 【休館日】月曜

【お問合わせ】TEL: 049-271-7327

URL: <http://www.josai.ac.jp/~museum/>



図版＝左上：東洲斎写楽《八代目森田勘弥の由良兵庫之助信忠》細判錦絵 寛政6年(1794)、右上：二代鳥居清信《二代目市川団十郎の渡辺綱》細判漆絵 享保19年(1734)、右下：三代歌川豊国《名轟大入来満 御所車 舎人桜丸》大判錦絵揃物 安政5年(1858)7月



関連企画

ギャラリートーク 11月3日(土)午後2時～